

高大接続で今考えるべきこと

東京大学大学院教育学研究科教授 中村 高康

2020年6月5日

文部科学省 大学入試のあり方に関する検討会議

1. 高大接続~~改革~~の前提

- 教育拡大と大学入学者層の変容
- 専門教育と普通教育の違い
- 選抜から教育へ、改革ではなく支援を
- 改革を焦らない...焦るとどうなるか？

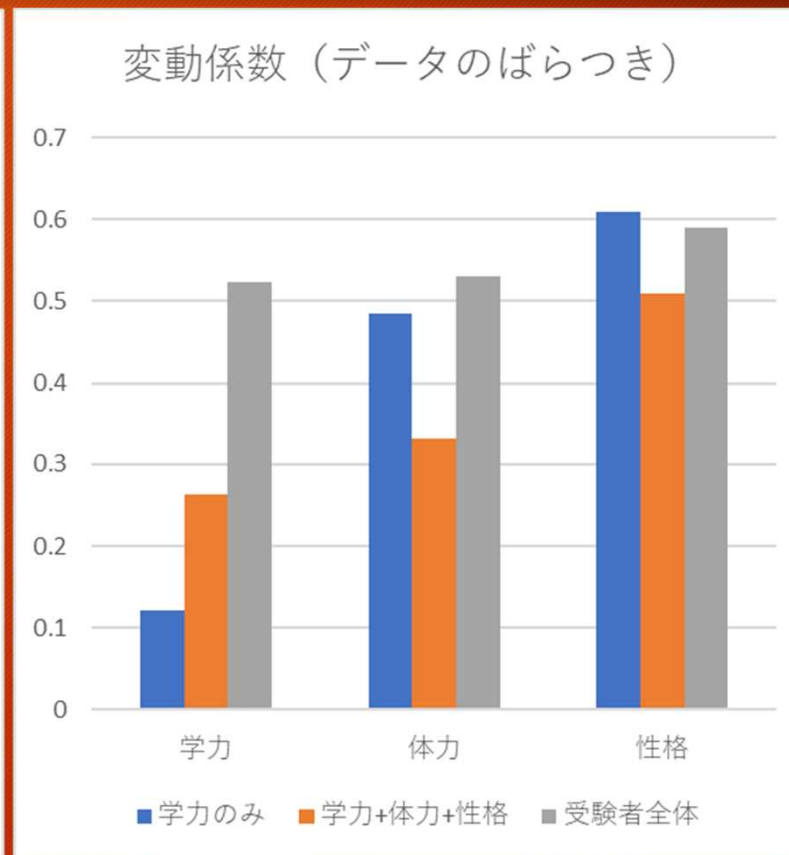
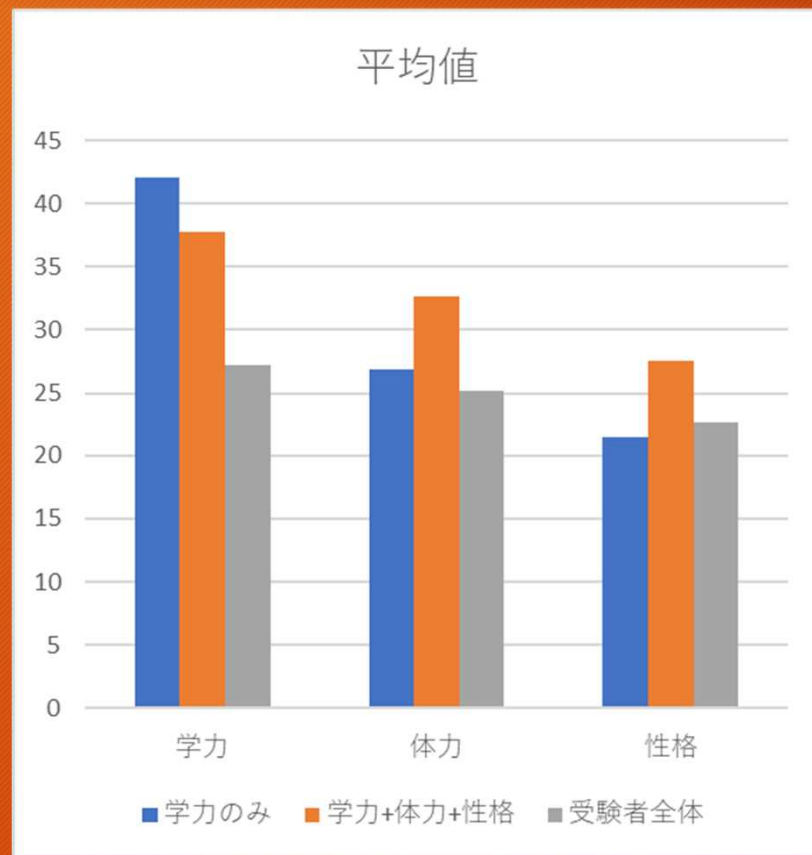
1. 高大接続改革の前提

- 「このような大きな社会変動の中では、これからの我が国や世界でどのような産業構造が形成され、どのような社会が実現されていくか、誰も予見できない。確実に言えるのは、先行きの不透明な時代であるからこそ、多様な人々と協力しながら主体性を持って人生を切り開いていく力が重要になるということである。また、知識の量だけでなく、混とんとした状況の中に問題を発見し、答えを生み出し、新たな価値を創造していくための資質や能力が重要になるということである。」(平成28年3月31日高大接続システム改革会議「最終報告」)
⇒ 予見できない社会で重要になる能力を予見している？

2. 「多様化」という名の画一化

- 従来からあった受験競争批判・知識の詰め込み批判
- その結果としての「世界に冠たる」入試多様化
- さらに、すべての入試区分で学力の3要素を
 - ➡これは入試多様化ではなく画一化。現実には何が起こりうるかというと...

2. 「多様化」という名の画一化



3. 主体性評価を全員に課すことの意味

- ・ 高校入試における内申書問題
 - ・ 公平性の問題
 - ・ 内申点操作の問題
 - ・ 良い子競争の問題

生活全体を入試にからめて考えざるを得なくなることの弊害

3. 主体性評価を全員に課すことの意味

「ワザあり対策 動作はキビキビと！

運動がニガテでも、少なくとも動作はキビキビとしよう。見学の場合も、よそ見したりせず、あくまで友だちのやっている姿を見つめよう。先生は見学の態度も見ている。」

学研『内申アップ方程式』より

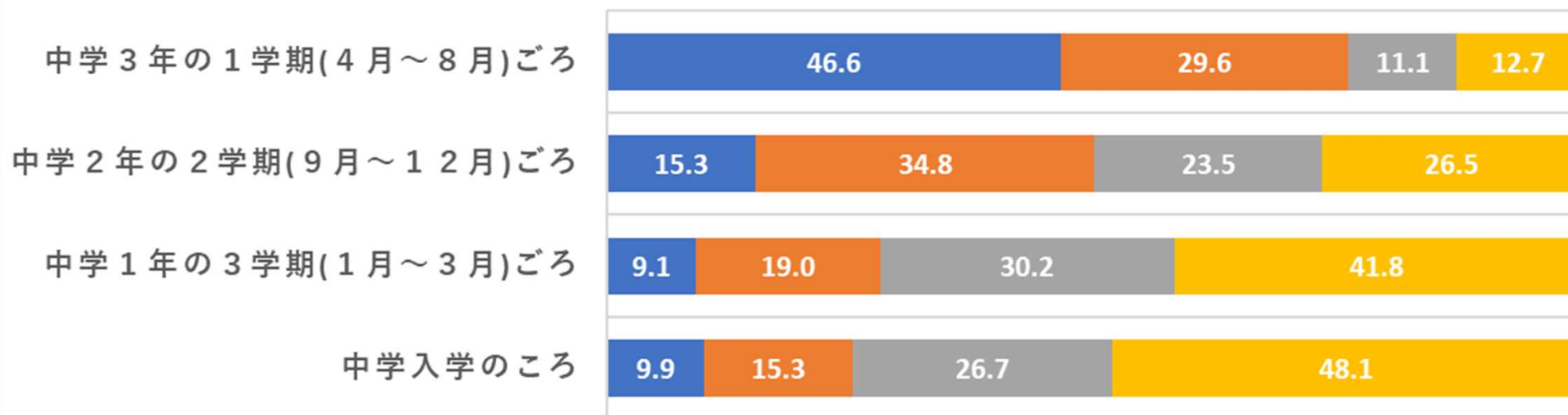
3. 主体性評価を全員に課すことの意味

- データから見た「主体性評価」(2020年3月中村研究室調査)
 - 多くの高校生が中学時代に内申書を意識(学年を追うごとに強まる)
 - 内申書を意識していろいろなことを実際に行っている
 - 一方で、積極的に内申書評価をしている人が多いのも注目すべき
- ⇒多様な層を念頭におくことの重要性

3. 主体性評価を全員に課すことの意味

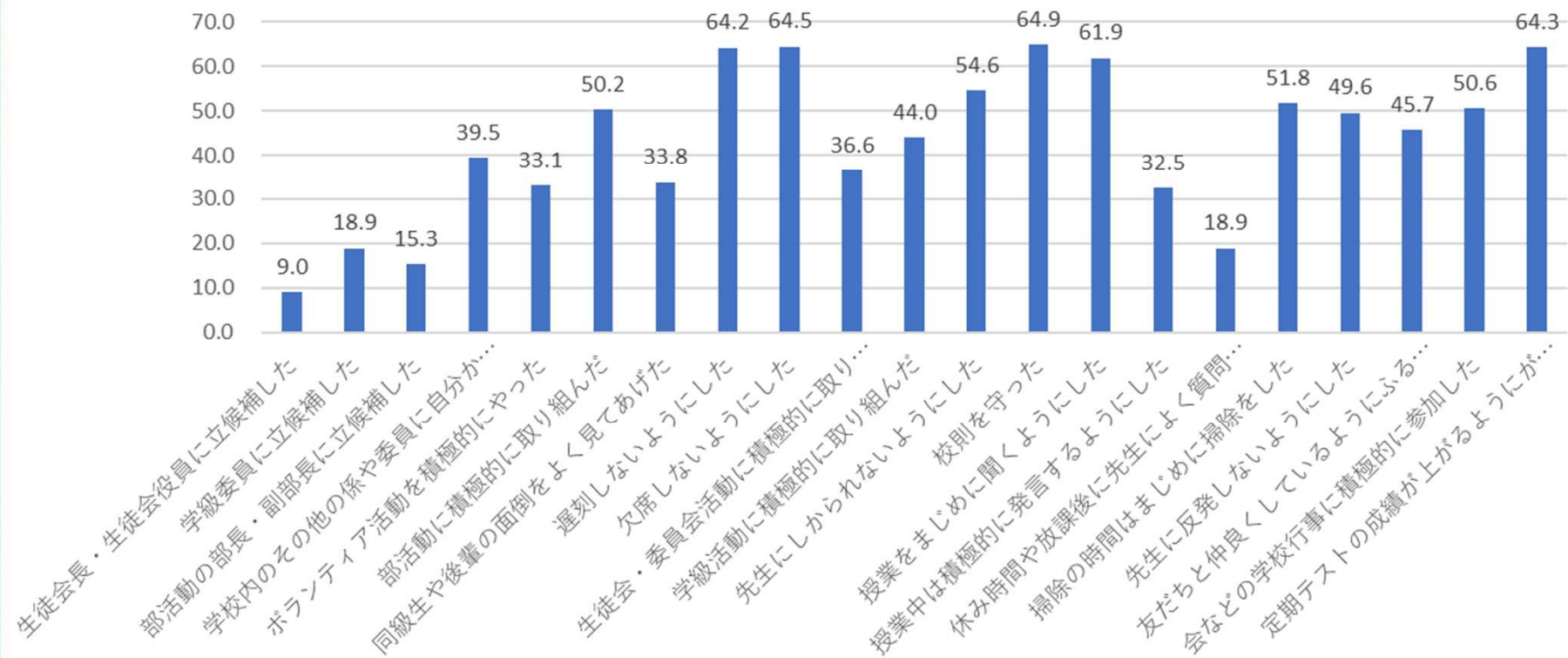
内申書をどの程度意識して生活していたか

■ とても意識していた ■ まあ意識していた ■ あまり意識していなかった ■ まったく意識していなかった



3. 主体性評価を全員に課すことの意味

内申書を意識してやった人の割合



4. これからの入試制度を考えるために

- 入試で教育を変えようとしなない。必ず歪む。
- 改革は制度を「画一化」する。それ自体が反改革的。政策が失敗したら全員が失敗する可能性。
- 理念先行のトップダウンではなく、専門家、現場教員、受験生などの意見をボトムアップで吸い上げて、データやエビデンスに基づいた現実的な制度を。

参考データとして、最後に調査結果から高校生の意識を...

4. これからの入試制度を考えるために

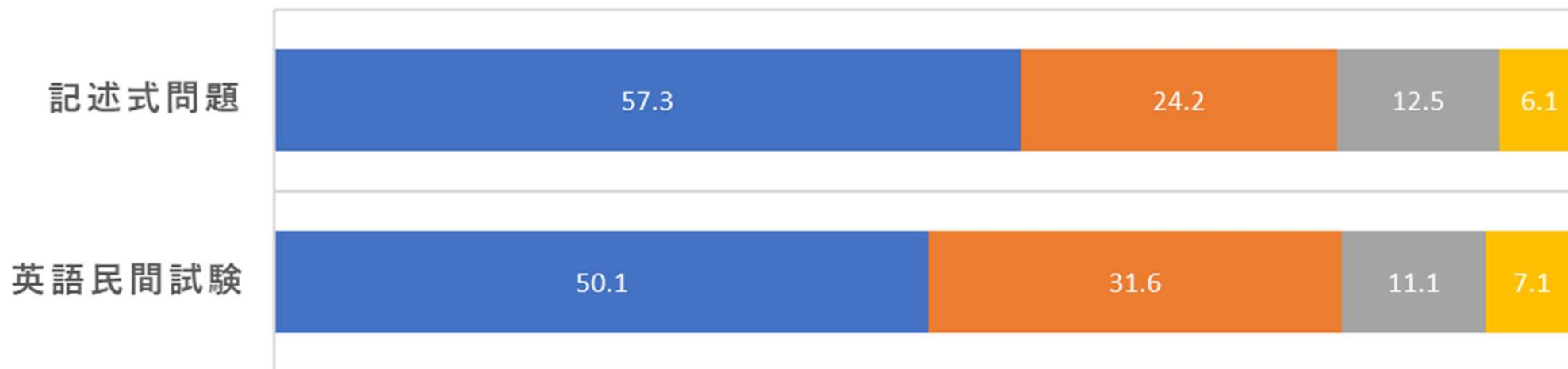
- 今般の入試改革をめぐる高校生の意見(本年3月の中村研究室調査)
- 大方の高校2年生(現3年生)が英語民間試験・記述式導入の中止にほっとしている。
- 今後の導入に賛成している高校生は少ない。

●この調査は比較的短期間で実施している。政府にもできることがあるのではないか。

4. これからの入試制度を考えるために

共通テストへの導入が見送りになりほったした
(高校2年生の大学進学希望者)

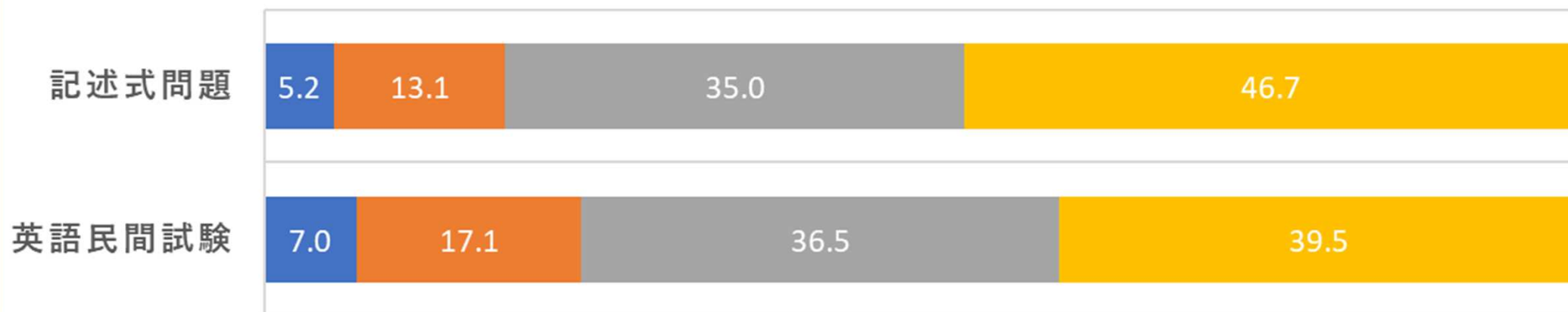
■あてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない



4. これからの入試制度を考えるために

準備していたので見送りは残念だった
(高校2年生の大学進学希望者)

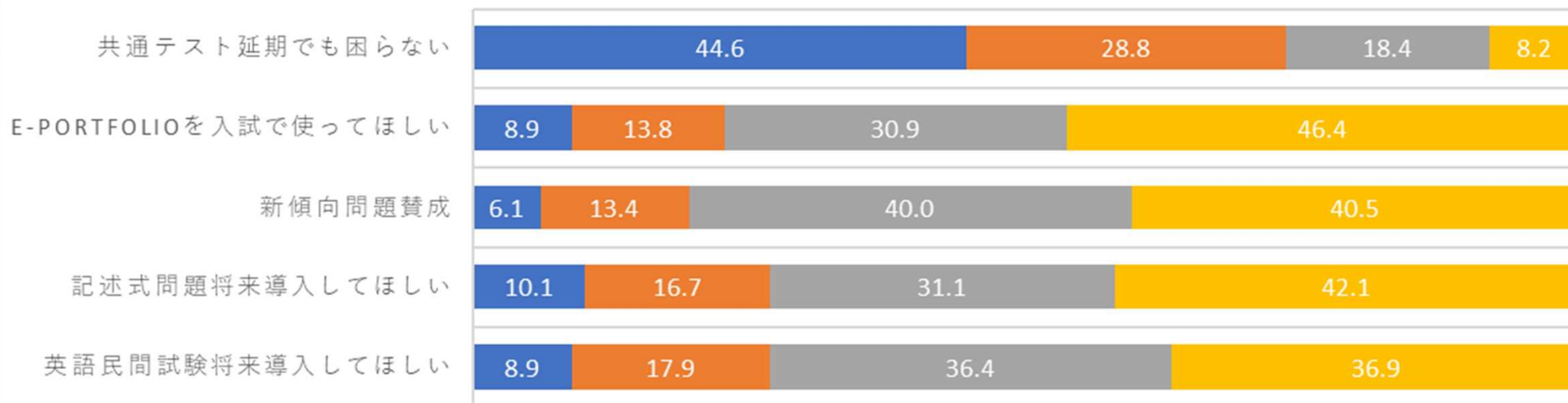
■ あてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない



4. これからの入試制度を考えるために

入試改革についての高校生の意見（大学進学希望者）

■ あてはまる ■ ややあてはまる ■ あまりあてはまらない ■ あてはまらない



終